令和５年度総合計画推進委員会審議結果

１　第６期総合計画重点施策及び第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標１

【農業経営の安定化について】

○　肥料・飼料の高騰対策については、今後も、近隣の自治体の実施状況や国の状況などを踏まえて、制度設計を行うなど、できる対策を必要に応じて講じることも検討する必要がある。併せて長期的なスパンで基盤整備なども逐次進めていく必要がある。

○　令和４年度は、長雨の影響で農業総生産額が基準値を下回ったことは理解するが、生産額から経費等を差し引いた所得がどうなったかを把握することが重要である。

○　家畜伝染病特定疾病互助事業は、小規模農家でも大規模農家でも対象になるとのことなので、今後も有効に機能するよう努めていただきたい。

○　本町の農業施策は、国の補助事業や臨時交付金などを活用しながら実施されており、今後もこれらを可能な限り有効活用して展開していくことが望ましい。

【商業者の経営安定に向けた支援について】

○　商工会の会員数は、順調に推移しているが、商業活動に従事する従業者がどのように推移しているかを把握することが重要である。

○　商工会の会員数の実績値が中間目標値を既に達成している状況にあり、中間見直しにおいては、目標値の見直しなども検討しながら、更なる推進を図る必要がある。

基本目標２

【農商工観連携の推進について】

○　なつぞらのふる里について、なつぞら公園の噴水を夏に利用したが、木陰がなく長い時間利用できなかった。将来的には、樹木が成長することで木陰ができ、バスの待合所も利用できるとのことではあるが、公園内に日陰となるような場所や遊具の設置を今後進めることはできないか。

○　建物内のキッズスペースについて、低年齢児と年長児のスペースは分けられているが、予想を超える来場者数のため、特に低年齢児が遊びにくい状況にあることから、施設内で遊びを分散できるようなスペースの設置や方策の実施を検討できないか。

○　なつぞらのふる里は産業連携課、ガーデンスパ十勝川温泉は商工観光課が所管しているが、両道の駅の連携を深め、２つあることの利点を生かすため、担当課の一元化を検討していただきたい。

○　両道の駅の来場者数に差があるため、なつぞらのふる里からガーデンスパ十勝川温泉へ人が流れるような取組を検討する必要がある。

○　ガーデンスパ十勝川温泉は、道の駅に指定後、年間２０万人の来場者数で堅調に推移しており、なつぞらのふる里が開業後も相乗効果で、来場者が流れてくるなどの恩恵も受けており、こうした流れを更に強化する必要がある。

【地域の活性化につながる関係人口の創出・拡大について】

○　何度か昭和商学校 Palette を利用したが、大変良い施設であり、今後も利用者の立場に立った運営を図ることが重要である。

○　昭和商学校の西側に、閉所となったへき地保育所があるが、この有効活用に向けた検討を進めることも必要である。

○　ふるさと納税について、件数が大きく増えているが、寄附金額がそこまで増えていないため、寄附金額を確保するための取組の検討も必要と思われる。

○　ふるさと納税について、寄附していただいた方が更に音更町のファンになっていただくよう、町のアピールを行う取組に力を入れてほしい。

○　ふるさと納税の業務見直しにより、ポータルサイトの運用数を増やしたことで、効率性が大きく上がり寄附数の増加にもつながることから、今後も順次民間事業者に任せるところは任せ、町は、新たな返礼品の開発やポータルサイトの増設などに力を入れる必要がある。

基本目標３

【義務教育内容の充実について】

○　いじめ対策の情報などを子どもだけでなく、保護者にも周知する必要がある。

○　不登校の児童生徒数がコロナの影響などにより増えている。不登校には様々な要因が重なることもあり、その対応も多様化（教育支援センターやフリースクール[※1]、保健室登校、オンライン授業など）しているほか、起立性調節障がい[※2]の子も増える中、国の統計上、難しい面もあるかもしれないが、登校を前提とした不登校の児童生徒数ではない捉え方も、社会参加に向けた支援を進める上で必要ではないか。

○　「小・中学校の教育環境」の満足度については、回答者全体の数値に加え、子育て世代など、各年齢層ごとの分析を行うことも有効と考える。

○　ハイパーQU アンケート[※3]は、児童や生徒に回答してもらうことで、意欲の低下やいじめの可能性のほか、クラスが荒れ始めているなどの状況も把握できるものであり、今後も有効活用を図る必要がある。

【子育て支援拠点の充実について】

○　国のメニューなどを活用し財源を確保しながら、先進的な他自治体を参考に、今後も多様化するニーズに合わせて事業内容を精査するなどして、より子育てがしやすいまちにしていただきたい。

○　近年は、近隣市町村も含め外国人同士のカップルなどが増えてきている。子育て支援も外国人を視野に入れて取り組んでいただきたい。

○　子育てをする際に周りにサポートしてくれる人がいないという家庭が多くある。たくさんのサポート事業があることは理解しているが、なかなか利用につながらず、頑張りすぎてしまう現状もある。実際の利用者の体験談などにより、希望者が、どのような人がどのような環境で助けてくれるのかなどを具体的にイメージできるよう情報発信を行う事業内容の「見える化」を進めることで、利用したいが不安がある人などへの後押しとなり、利用につながると思う。

○　「子育て環境や支援」の満足度が下がっているが、子育て世代にピンポイントでアンケートを実施するなどして、満足できていない内容などを分析していかなければ満足度を上げるための対策を打つこともできないと感じる。

○　離婚などにより、ひとり親家庭が増え、養育費の支払が滞っているなどの事例も増えてきていることから、そうした相談があった場合に、町の法律相談のほか、関係機関が行う経済的支援などにつなぐことも重要になってくる。

基本目標４

【循環型社会づくりの推進について】

○　各家庭で必ず使う指定ごみ袋やその包装に、温室効果ガス削減のアイデアやメッセージなどを印刷して PR することで目にする機会が増える一つの方法になると思う。また、外国人の方も理解できるようにするなどの配慮も必要と考える。

○　町全体の温室効果ガスの排出量は、国が定めた推計方法で計算するとのことだが、この取組をすれば排出量がこれくらい減るというようなことを分かりやすく示すことができれば、各家庭でも協力しやすくなると思う。

○　これまでは、地球温暖化対策実行計画の「事務事業編※4」を策定し、役場の事務事業で発生する温室効果ガスを中心に削減に取り組んできたとのことであるが、今後は、作成された「区域施策編※5」に基づき、町の区域から出る温室効果ガス全体の削減に取り組むとのことであり、一人ひとりの取組が重要となる。

○　車の暖気運転をやめる、こまめに電気を消すなどのほか、コンビニまで歩いて買物に行くなど、健康づくりにもつながるような地道な取組を広く発信していただきたい。

【防災対策の充実について】

○　近年、町内会に属さない人が増えてきている中で、近くに住む人の情報が分からず、各地域で要支援者を把握することが困難になってきている。特に若い世代が町内会に入らない傾向にあるが、防災への関心は比較的高いため、地域コミュニティとして自主防災組織※6 を設立し、その活動をアピールすることで、町内会への加入と合わせて推進する必要がある。

○　町が、休日などに出向いて防災に関する講話などを行うことも可能とのことなので、若い世代がいるときに実施することで、共通の話題でどう対応するかなどのコミュニケーションもでき、自主防災活動などへの興味を示すきっかけになると思う。

○　町内に住む外国人向けに、ハザードマップなどを多言語化にしたり、「やさしい日本語※7」にしたりするなど、誰にでも分かりやすいものにするよう検討していただきたい。

２　その他の意見

○　KPI※8 などの達成度が低かったり、自己評価などで課題があったりする項目などを取り上げ、改善に向けた知恵を出し合うことで、効果的な計画推進につなげることができるのでは。

○　町が民間事業者に補助している事業では、町の負担額のみならず、民間事業者の事業費も可能な限り把握して総事業費を捉えた方が良いと考える。

○　臨時的な財源などを用いて各種支援対策を措置することで順調に維持している施策の場合、今後も同様の予算措置をしなければ維持できないかなどの視点で議論することも重要である。

用語解説

※１　フリースクール：民間事業者が運営しており、学校に行けない子どもに学習や生活の支援を提供する教育施設のこと。

※２　起立性調節障がい：自律神経のバランスが崩れ、起立時に身体や脳への血流が低下し、朝起き上がることができなくなったり、全身のだるさや頭痛などの症状が出たりする病気のこと。

※３　ﾊｲﾊﾟｰQUｱﾝｹｰﾄ：『楽しい学校生活を送るためのアンケート』のこと。全国の小中高校で利用されており、学校生活における満足度や意欲、学級集団の状態を調べることができる。

※４　事務事業編：地球温暖化対策実行計画における、地方公共団体が実施している事務・事業に関して温室効果ガスの排出量削減のための措置に関する計画のこと。

※５　区域施策編：地球温暖化対策実行計画における、地域の状況に応じた地球温暖化対策を実行し、町から排出される温室効果ガスを削減するための措置に関する計画のこと。

※６　自主防災組織：平常時には防災訓練や啓発活動を行い、災害時には、避難誘導や給食給水活動などを行う、地域住民の自衛意識と連携に基づいて結成する組織のこと。

※７　やさしい日本語：普段使われている言葉を、外国人等にもわかるように配慮して、簡単にした日本語のこと。

※８　ＫＰＩ：「Key Performance Indicator」の略語で「重要業績評価指標」「重要達成度指標」と訳される。目標を達成するための過程が適切に実行されているかを評価するための指標で「中間目標」のこと。